

「^{たかはし}高梁市高齢女性のパーソナル・ネットワークと主観的幸福感調査」の基礎分析

野 邊 政 雄

筆者は、平成9年から平成10年にかけて高齢女性を対象に岡山県高梁市^{たかはし}において集団加入やパーソナル・ネットワークに関する調査を実施した。本稿では、この調査の概要を説明し、単純集計表を提示した。そして、このデータを用いて、高梁市への流入過程、身体的健康、身体的活動能力、モラール、生活満足度、各種の集団への加入、町内会などがおこなう活動への参加、パーソナル・ネットワークについて検討をおこなった。さて、高梁市は都市部（＝市街地）と農村部からなりたっているが、都市部と農村部で暮らす高齢女性の違いについても考察した。

Keywords：高齢女性、パーソナル・ネットワーク、主観的幸福感、集団加入

1. 本稿の目的

人々は、同居家族、別居している親族、近所の人、友人、職場の上司や同僚などと社会関係（＝人間関係）を取り結んでいる。ある個人が取り結んでいる社会関係の全体はパーソナル・ネットワークと呼ばれている。筆者は、平成9年11月から平成10年1月にかけて65歳以上80歳未満の女性を対象に岡山県高梁市^{たかはし}においてパーソナル・ネットワークの調査を実施した。（以下では、この調査を「高梁市高齢女性調査」と呼ぶ。）本稿では、この調査の概要を説明し、単純集計表を提示する。そして、この単純集計表を検討することから得られた知見を解説する。

って規定されているか。③高齢女性の主観的幸福感（モラールや生活満足度）は、どのような要因によって規定されているか。

以上の3点を探究するために筆者が設定した高梁市高齢女性調査における研究枠組みは、図1のようになる。この研究枠組みは、(1)個人の属性（社会階層、居住期間など）、(2)身体的健康・身体的活動能力、(3)パーソナル・ネットワーク（社会関係を取り結ぶ相手の人数、間柄、居住地、交際頻度、親密度、サポートの種類など）と集団加入、(4)主観的幸福感、の4つの要素からなる。そして、これら4つの要素の間に、①個人の属性と身体的健康・身体的活動能力によってパーソナル・ネットワークと集団加入が規定されている、②個人の属性、身体的健康・身体的活動能力、及びパーソナル・ネットワークと集団加入は主観的幸福感に影響を及ぼす、という2つの因果関係を想定している。

2. 研究目的と研究枠組み

筆者はこの調査で次の3点を探究しようとした。
①小都市で暮らす高齢女性はどのようなパーソナル・ネットワークを組織しているか。②高齢女性のパーソナル・ネットワークは、どのような要因によ

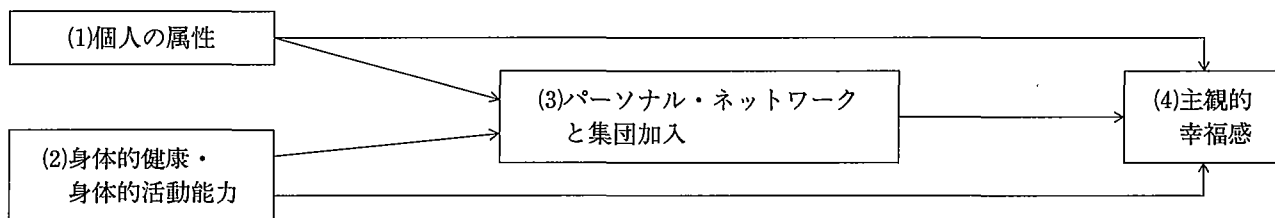


図1 研究枠組み

岡山大学教育学部社会科教育講座 〒700-8530 岡山市津島中3-1-1
Elderly Women's Personal Networks and Subjective Well-being in Takahashi City, Japan: Initial Findings
Masao NOBE: Department of Social Studies Education, Faculty of Education, Okayama University, 3-1-1
Tsushima-naka, Okayama 700-8530

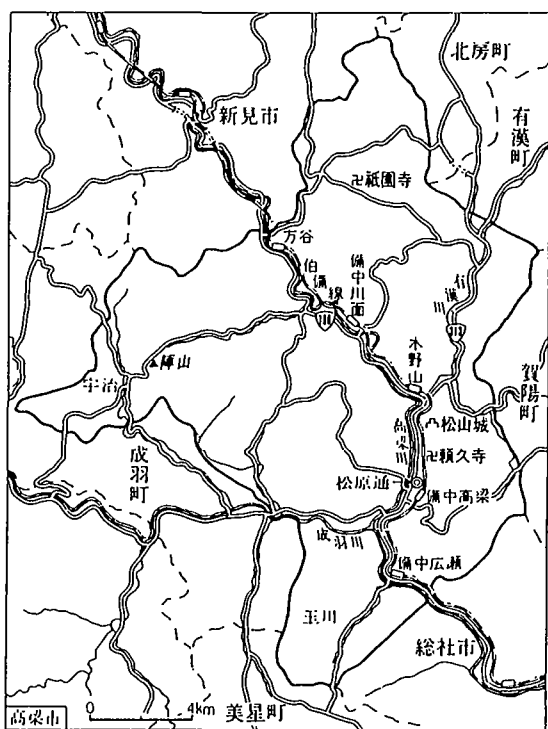


図2 高梁市市域図

出所：「角川日本地名大辞典」編纂委員会編
『角川日本地名辞典 33 岡山県』1989年
角川書店 1301頁

3. 調査地の概要

図2は高梁市の地図である。高梁市は高梁川の中流域にあり、高梁川が同市の北西から南東に流れている。成羽川が市の南部で高梁川に合流している。JR 伯備線と国道180号線が高梁川に沿っており、国道313号線が成羽川に沿ってある。地形的に見ると同市は、①おおむね300メートルから500メートルの高原部(吉備高原)、②高梁川、成羽川、それらの支流に沿った谷底平野部、③両者の中間にある傾斜部からなっている。総面積の約77%が山林原野である。谷底平野部は市街地となっていたり、水田や畑として利用されている。高原部の平坦部は水田、緩斜面は畑として利用されている。傾斜部の多くは山林であるが、緩傾斜の部分は棚田や畑となっている。

高梁市は次のように成立した。1869年(明治2年)に地名を松山から高梁に改め、高梁藩となった。さまざまな変遷をたどり、高梁市域の村々は1875年に岡山県に属することになった。村々は合併を繰り返したが、1889年の市制町村制施行により高梁町と10村となった。その後、高梁町と松山町が1929年(昭和4年)に合併して高梁町となった。1954年に、高梁町、津川村、川面村、巨瀬村、玉川村、落合村、高倉村、宇治村、松原村が合併し、高梁市が成立した。翌年の1955年に中井村を合併し、1970年に賀陽町の一部を編入し、現在に至っている。高梁市は周

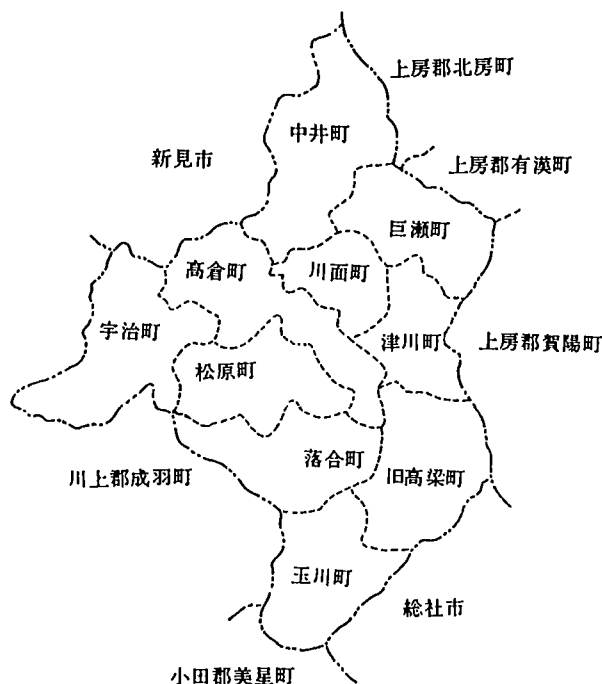


図3 高梁市を構成する地区

辺の村々をこのように合併したので、旧高梁町(本稿では、1929年の合併で成立した高梁町の地区を旧高梁町と呼ぶ)、津川町、川面町、巨瀬町、中井町、玉川町、宇治町、松原町、高倉町、落合町という10の地区からできている(図3)。

市街地と集落の分布を見ておこう。JR 伯備線の備中高梁駅は旧高梁町にある。この駅の周辺はかなり広い谷底平野であり、高梁市の中心的な市街地となっている。それから、これと隣接している落合町の阿部と近似では、市街地化が近年進んでいる。成羽川が高梁川に合流する地点の北側にあるのが落合町阿部である。市役所はそこに工業団地を造成し、企業を誘致したので、いくつかの企業がこれまでに進出した。これに伴って、従業員のためのアパートが建設され、一戸建て住宅が増えた。また、広い駐車場を備えた郊外型の大型店(専門店のテナントやレストランの入った総合スーパーマーケット)が1990年に建てられた。その結果、落合町阿部では、市街地化が近年著しい。高梁川をはさんだ備中高梁駅の対岸にあるのが落合町近似である。備中高梁駅と落合町近似とを直結する高梁大橋が1983年に建設されて、住宅地化が落合町近似で進んだ。これらが高梁市の主要な市街地である。

前述のように、高梁市は周辺にある村々を合併したので、旧高梁町と落合町以外の地区のほとんどは農村である。そうした農村地域の中に、小規模な市街地が点在している。小さな町並みが備中高梁駅以外の JR 伯備線の駅周辺にできている。また、合併する以前に村の中心地であったところには、市役所の

出張所や公民館などが置かれている。商店や民家がこうしたところであり、小さな町並みがある。

1995年における高梁市の人口は26,072人である。そのうち、15歳未満の年少人口の割合は14.3%であり、65歳以上の高齢人口の割合は23.7%である。旧高梁町と落合町の多くが市街地であり、その他の地区の大部分は農村である。そのため、同市の住民の60.2%が旧高梁町と落合町に住んでいるというように、両地区への人口集中が顕著である（国勢調査による）。

4. 調査方法

調査対象者を高梁市に居住する65歳以上80歳未満の女性とした。住民基本台帳によれば、1997年11月1日現在、その年齢帯の高齢女性は同市に2,764人いた。高梁市高齢女性調査では、その高齢女性の中から22%に当たる609人を無作為抽出した⁽¹⁾。

1997年11月に調査依頼の葉書をその609人に発送した。そして、翌年の1月末日までの間に、高梁市の民生委員と児童委員が該当する高齢女性を訪問し、面接によって調査をおこなった。調査対象者を3回訪問しても、不在等で調査ができない場合、それ以上の訪問を行わなかった。聞きもらしなど記入が不完全な調査票があったが、筆者が電話と再訪問によって不明な点をただした。有効票数は523であり、無効票数は86であった。無効票の内訳は、転居1、該当者発見できず1、不在26、長期不在（家屋は残しているが、子供のもとに行って暮らしている）3、病気26、長期入院6、拒否23であった。病気の中で、痴呆が半数以上を占めていた。回収された有効票数を該当する人がいた調査対象者数（転居を除いた608）で除した割合を回収率とすると、回収率は86.0%であった。

5. 単純集計表

既に提示した図1の研究枠組みにもとづいて、それぞれの要素を尋ねる質問を作成した。表1には、それぞれの要素と調査票の質問の対応関係を示した。以下、設問に従って単純集計表を提示してゆくが、選択肢ごとに表示された数字は、それぞれを選択し

た人数であり、括弧内の数字は全回答者523を母数としたパーセンテージである。問9のような選択質問についてのパーセンテージに、注意が必要である。問8で町内会に「加入している」と答えた回答者のみが問9に回答しているけれど、問9の各選択肢に示されたパーセンテージは問8で町内会に「加入している」と答えた人数を母数とした割合でなく、前述の523人を母数としたパーセンテージである。ところで、問10のような複数回答が認められた質問では、選択肢のパーセンテージの合計が100にならないことは言うまでもない。

6. 主要な知見

第1に、回答者の高梁市への流入過程を検討する。調査結果によると、51.6%の回答者は高梁市（現住所で生まれた回答者と現住所以外の高梁市で生まれた回答者の合計）で出生していた。さらに、高梁市以外のお岡山県で生まれた回答者は39.6%であるから、高梁市以外で生まれた回答者の大部分もやはり岡山県内生まれである（問1）。高梁市以外のお岡山県内における出生地を見ると、岡山県内にあるさまざまな市町村というわけではなく、その多くは新見市（39人）、成羽町（37人）、北房町（23人）といった高梁市に隣接する市町村である。（この結果は第5節問1の単純集計表には提示してはいない。）以上を要約すると、90%以上の回答者は岡山県内で生まれているが、出生地の大部分は高梁市か隣接市町村であるということになる。

10代をすごした場所についても、出生地とほぼ同様のことが言える。52.3%の回答者は高梁市（現住所で10代をすごした回答者と現住所以外の高梁市で10代をすごした回答者の合計）で10代をすごしていた。さらに、高梁市以外のお岡山県で10代をすごした回答者は38.2%であるから、高梁市以外で10代をすごした回答者の大部分も岡山県内で10代をすごしていたことになる（問5）。高梁市以外のお岡山県内で10代をすごした回答者がどこでその時代をおくったかを見ると、岡山県内にあるさまざまな市町村であるというのではなく、その多くは新見市（33人）、成羽町（36人）、北房町（20人）といった高梁市に隣接する

表1 各質問の位置づけ

要素	質問番号
(1)個人の属性	問1～問7, 問23～問25, 問39～問60
(2)身体的健康・身体的活動能力	問18, 問20
(3)パーソナル・ネットワークと集団加入	問8～問17, 問26～問38
(4)主観的幸福感	問19, 問21, 問22

市町村である。(この結果は第5節問5の単純集計表には提示してはいない。)以上は次のように要約できる。90%以上の回答者は岡山県内で10代をすごしていたが、そうした場所のほとんどは高梁市か隣接市町村である。

高梁市の高齢女性は同市の周辺市町村で生まれて、10代をすごした人が多かった。これについて興味深い点は、そうした周辺市町村の多くは新見市、成羽町、北房町といった高梁市よりも農村的な県北ないし県中部の地域であり、総社市、倉敷市、岡山市といったより都会的な県南の地域ではないことだ。人数をあげれば、総社市生まれは9人、倉敷市生まれは4人、岡山市生まれは5人にすぎない。10代をすごした場所は、総社市9人、倉敷市5人、岡山市10人だけである。高梁市宇治公民館の元館長の話によれば、当時、女性は結婚によってより都会的な地域に移ろうとする風潮があったという。新見市、成羽町、北房町で生まれ、10代をすごした高齢女性が多かったのは、そうした風潮のためであると考えられる。

前住地についても、出生地や10代をすごした場所と同じような傾向がある。13.6%の回答者は現住地にずっと住んでおり、43.0%の回答者の前住地は高梁市内の別の場所であった。さらに、高梁市以外の岡山県が前住地である回答者は36.5%であるから、前住地が高梁市以外であっても、その大部分は岡山県内の市町村であるということになる(問6)。高梁市以外の岡山県内における前住地を見ると、新見市(33人)、成羽町(33人)、北房町(23人)といった高梁市に隣接する市町村に多い。(この結果は第5節問6の単純集計表には提示してはいない。)以上を要約すると次のようになる。90%以上の回答者は現住所でずっと住んでいるか、(高梁市を含む)岡山県内の別の場所から現住所に移ってきた。前住地は岡山県内のさまざまな市町村であるというわけではなく、その大部分は高梁市か隣接市町村である。

出生地、10代を過ごした場所、前住地を検討してきた。この検討から、高梁市に住む高齢女性の過半数は同市の出身であり、流入者も日本全国から来たのではなく、その多くは県北ないし県中部の高梁市に隣接する市町村から流入して来たことが分かる。

第2に、身体的健康度、身体的活動能力、モラル、生活満足度を見ておく。既に述べたように、これらはパーソナル・ネットワークや集団加入に関する質問と並んで高梁市高齢女性調査の核心をなす質問である。高梁市におけるこれらの質問の回答を検討するだけからは、同市の高齢女性の特徴を指摘しにくい。他の都市でおこなわれた同様の調査の結果

表2 高梁市と岡山市に住む高齢女性の比較

	高梁市 (523人)	岡山市 (169人)
身体的健康度 (問20)	3.35 (0.62)	3.42 (0.60)
老研式活動能力指標 (問18)	11.63 (2.18)	11.60 (1.63)
モラル (問19)	11.29 (3.62)	11.80 (3.61)
生活満足度 (問22)	75.09 (16.18)	75.31 (14.52)

(注) 括弧内の数字は標準偏差。

身体的健康度は、4 (健康) から1 (健康でない) までの4段階に置き換えて、平均値を算出した。

両群の間の値について平均値の差の検定をおこなった。

5%有意水準(両側危険率)ではいずれの項目も両群の間に有意差はない。

と比較することで、高梁市の高齢女性の特徴を明確にできるのである。幸いなことに、まったく同じ質問を用いて岡山市でおこなわれた高齢女性の調査がある(野辺他 1996)。この結果と比較することで、高梁市の高齢女性の特徴を指摘したい。

表2は高梁市と岡山市の高齢女性の、身体的健康度(問20)、老研式活動能力指標(問18)、モラル(問19)、生活満足度(問22)の平均を対照的に示したものである。身体的健康度はもともと序列尺度であるので、このままでは両者を比較しにくい。そこで、便宜的に間隔尺度と見なし、4(健康)から1(健康でない)までの4段階に置き換えて、平均値を計算した。表2より、例えば、高梁市に住む高齢女性のモラルの平均は11.29であり、岡山市の高齢女性のそれは11.60であるといったことを読み取れる。平均値の差の検定によれば、高梁市と岡山市の高齢女性の間にはいずれの項目でも有意差はない。

この比較で興味を引くことは、次の点である。小都市でのどかな暮らしをしている方が主観的幸福感(モラルや生活満足度)は高いというように、都市の人口規模と住民の主観的幸福感が関連していることを予想できる。しかし、予想に反して、人口約60万人の中核都市である岡山市で暮らしていても、人口約2万6千人の小都市である高梁市で暮らしていても、高齢女性の主観的幸福感に差がなかった。

第3に、町内会への加入を吟味する。日本の都市の特徴として、町内会(あるいは、自治会、町会、組合などと呼ばれる地域集団)へ加入する世帯の割合が高く、そうした半強制的ないし自動的な地域集団への参加が集団参加の中心をなしていることが指摘されてきた(鈴木 1976)。高梁市の高齢女性を対象におこなった本調査でもそうしたことがいえる。この調査の回答者の96.9%が積極的であれ、消極的であれ町内会に加入していた(問8)。

さて、町内会は多くの機能を果たし、その機能が包括的であると言われている(中村 1964)。高梁市

高齢女性調査では、町内会、婦人会、老人クラブ⁽²⁾といった地域集団が実施する各種の活動への参加を尋ねた(問10)。参加率の高い活動は、慶弔の世話(46.7%)、募金の協力(42.8%)、運動・レクリエーション・旅行(39.0%)、清掃(34.8%)、盆踊り・祭り(32.1%)、総会に出席(31.9%)、空き缶拾い(29.3%)であった。このことから、町内会をはじめとする地域集団が多機能的であるとともに、かなりの高齢女性がそうした各種の活動に参加していることが分かる。

以上の結果を要約すれば、次のようになる。高梁市の高齢女性は半強制的ないし自動的な町内会に加入し、町内会、婦人会、老人クラブといった地域集団が実施する広範な活動に参加し、地域社会の住民との共同・協力にも積極的である。

第4に、町内会以外の集団への参加を検討する。加入率の高い集団は、農協(29.6%)、老人クラブ(29.1%)、婦人会(23.1%)、趣味の会・スポーツ団体(23.1%)、愛育委員会(20.3%)、宗教団体(12.8%)、社会奉仕やボランティアの会(12.6%)であった(問11)。加入がかなり自動的な地域集団である老人クラブや婦人会への加入率が高いものの、任意加入性が強く、自らの興味や関心を満たす集団である趣味の会・スポーツ団体や社会奉仕やボランティアの会にも比較的高い割合の回答者が加入していることは注目し得る。趣味の会・スポーツ団体での活動が比較的盛んであることは、公民館やカルチャー・センターでの活動に過去1年以内に参加した回答者が33.8%にのぼることによっても裏づけることができる(問12)。それから、高梁市の大部分は農村地域であるので、農協への加入率が当然のことながら高い。また、宗教団体への加入率が相対的に高いことは、高梁市に住む高齢女性の特徴といえる。

このような集団加入の実態は、つぎのように要約できよう。高梁市の高齢女性の多くは町内会、婦人会、老人クラブといった半強制的ないし自動的な地域集団に加入していたから、そうした集団への参加が集団参加の中心をなしているといえる。同時に、自己実現のために任意に加入する趣味の会・スポーツ団体と社会奉仕やボランティアの会への加入率が比較的高いことにも着目すべきであろう。

第5に、パーソナル・ネットワークを検討する。問26から問33によって、1人の回答者は平均して5.48の社会関係を取り結んでいることが分かった。そして、同居家族と1.13の、同居家族以外とは4.35の社会関係を組織していた。第5節問34に示した[問柄×居住地]の表より、同居家族を除いた相手の問柄別の平均人数を多いものから少ないものへ並べ

ると、(1)親族、(2)近隣者、(3)友人、(4)職場仲間(同僚・上司)の順となる。そして、1人の回答者は平均して、2.18の親族関係、1.32の近隣関係、0.77の友人関係、0.08の職場仲間関係を取り結んでいた。この中で、親族関係の多さが際立っている。特筆すべきは近隣関係が友人関係よりも多いことである。

社会関係を取り結ぶ相手の居住地別の人数を同じように多いものから少ないものへ並べると、(1)近隣地域(本稿では、歩いて15分以内の地域をこのように呼んでおく)、(2)(近隣地域を除いた)高梁市内、(3)(近隣地域と高梁市内を除いた)岡山県内、(4)岡山県外の順になる。そして、1人の回答者は平均して、近隣地域では1.89の、高梁市内では1.10の、岡山県内では1.07の、岡山県外では0.30の社会関係を組織していた。これらの数値から、岡山県外の人と取り結んでいる社会関係は相対的に少なく、ほとんどの社会関係は、近隣地域、高梁市内、岡山県内のいずれかで組織されていることが分かる。(家族外で取り結ばれている社会関係の全体の93.3%が、これら3つの地域のいずれかで組織されている。)それから、近隣地域で1.89の社会関係を組織している(家族外で取り結ばれている社会関係の全体の43.4%)から、近隣地域が社会関係を取り結ぶ場所として重要であり、そこにおいて社会的な連帯があるといえる。このことは、上述した半強制的ないし自動的な地域集団への加入率が高いことやそうした集団が実施する各種の活動への参加率が高いこととも整合する。

ところで、まったく同じ質問を用いて、筆者らは岡山市の高齢女性が取り結ぶパーソナル・ネットワークを調査した(野邊他 1996)。第5節問34で示した[問柄×居住地]の表に対応するように岡山市の高齢女性の社会関係を集計すると、表3のようになる。ここで、高梁市と岡山市の高齢女性のパーソナル・ネットワークを比較すると、次のような相違がある。

まず、各種の社会関係数を比べると、有意差が同居家族関係数、近隣関係数、友人関係数で見られる。高梁市の高齢女性は岡山市の高齢女性よりも多くの同居家族関係と近隣関係を持っている。数値をあげれば、高梁市の高齢女性は平均して1.13の同居家族関係を持っているのに対し、岡山市のその値は0.83である($p < .01$)。また、前者は1.32の近隣関係を組織しているが、後者は0.85にすぎない($p < .01$)。友人関係数は逆であり、岡山市の高齢女性の方が高梁市の高齢女性よりも多くの友人関係を組織している。つまり、岡山市の高齢女性は平均して1.49もの友人関係を取り結んでいるが、高梁市のその値は0.77に

表 3 岡山市の高齢女性のパーソナル・ネットワーク

(単位：人)

	近隣地域	岡山市内	岡山県内	岡山県外	合 計
同居家族	—	—	—	—	0.83(0.90) **
親 族	0.27(0.58)	1.13(1.37) **	0.36(0.80) **	0.48(0.99) *	2.24(1.82)
近 隣 者	0.82(1.17) **	0.03(0.23)	0(0)	0(0)	0.85(1.21) **
友 人	0.33(0.81)	1.02(1.78) **	0.10(0.45)	0.04(0.35)	1.49(2.13) **
職場仲間	0.01(0.15)	0.11(0.44)	0.02(0.17)	0.04(0.34)	0.18(0.73)
合 計	1.44(1.50) **	2.29(2.44) **	0.47(0.94) **	0.56(1.09) **	5.59(3.40)

(注) 括弧内の数字は標準偏差。標本数は169である。

高梁市の高齢女性の対応する社会関係数との間で平均値の差の検定をおこなった。

両側検定。 ** p<.01 * p<.05

すぎない(p<.01)。岡山市の高齢女性との比較においても、近隣関係がパーソナル・ネットワークの中で占める比重が高梁市の高齢女性にとって高いことが分かる。

次に、相手の居住地ごとの社会関係数を比べると、近隣地域、市内、岡山県内、岡山県内で取り結ぶ社会関係数のいずれでも有意差がある。高梁市の高齢女性は近隣地域と岡山県内で岡山市の高齢女性よりも多くの社会関係を組織している。数値をあげれば、前者は近隣地域で1.89の社会関係を組織しているのに対し、後者はそこで1.44の社会関係を持っているにすぎない(p<.01)。また、前者は岡山県内で1.07の社会関係を取り結んでいるが、後者のその値は0.47にすぎない(p<.01)。市内と岡山県外における社会関係は、逆に岡山市の高齢女性の方が多い。つまり、岡山市の高齢女性は市内で2.29の社会関係を組織しているが、高梁市の高齢女性はそこで1.10の社会関係を持っているにすぎない(p<.01)。また、岡山市の高齢女性は岡山県外で0.56の社会関係を取り結んでいるが、高梁市の高齢女性のその値は0.30である(p<.01)。この比較でも、高梁市の高齢女性にとっては、近隣地域が社会関係を取り結ぶ場所として重要であることが浮かび上がる。

高梁市の高齢女性が市内で取り結ぶ社会関係は、岡山市の高齢者が市内で取り結ぶ社会関係よりも少なかった。この理由の1つとして、高梁市の市域(228.99km²)が岡山市の市域(510.72km²)よりもかなり狭いということが考えられる。ところで、高梁市の高齢者が市内と岡山県内で取り結ぶ親族関係は1.50であり、岡山市の高齢者が両地域で組織する親族関係は1.49である。このように市内と岡山県内で組織している親族関係数の合計を両市で比べるとほぼ等しい。このことは、高梁市の市域が狭いから市内における社会関係が少なかったということの傍証となるだろう。

第6に、親族関係に関連して子供の居住地を検討しておこう。問26から問33までの質問で名前があげられた子供(何らかのサポートを入手できる子供)か問36であげられた子供(サポートを入手できない子供)かにかかわりなく、高齢女性の子供がそれぞれの地域に平均して何人いるかを計算し、表4に示す。これによれば、子供が最も多くいる地域は(高梁市内を除いた)岡山県内であり、平均して1.05人いることを読み取れる。岡山県内に子供がいる場合、調査では市町村名を尋ねた。子供の住んでいる主要な岡山県内の市町村とそこに住む子供の平均人数を表4の下に示す。多くの子供が暮らしているのは、岡山市、倉敷市、総社市といった1時間以内に車で高梁市へ行ける都市である。第2番目に子供が多く

表 4 それぞれの地域にいる子供の平均人数
(単位：人)

同居する子供	0.50(0.53)
近隣地域にいる子供	0.09(0.33)
(近隣地域を除く)高梁市内にいる子供	0.28(0.54)
(高梁市内を除く)岡山県内にいる子供	1.05(1.10)
岡山県外にいる子供	0.63(0.87)
外国にいる子供	0.01(0.10)
合 計	2.55(1.22)

[子供がいる岡山県内の主な市町村]

岡山市	0.38(0.40)
倉敷市	0.27(0.59)
総社市	0.12(0.40)

(注) 高梁市の高齢女性にそれぞれの地域で子供がいる平均人数を示す。括弧内の数字は標準偏差。高齢女性には(高梁市内を除く)岡山県内に平均して1.05人の子供がいるが、そうした子供が住んでいる主要な市町村は岡山市、倉敷市、総社市である。それぞれの市に子供がいる平均人数を下を表はしている。

表5 子供の居住地別による高齢女性の人数
(単位：人)

いずれかの子供のいる地域	人数
子供と同居する高齢女性	251(48.0%)
子供と同居ないし近隣地域のどこかに子供がいる高齢女性	269(51.4%)
子供と同居ないし高梁市内のどこかに子供がいる高齢女性	325(62.1%)
子供と同居ないし岡山県内のどこかに子供がいる高齢女性	463(88.5%)
子供と同居ないし別居する子供がどこかにいる高齢女性	504(96.4%)

いる地域は岡山県外であり、平均して0.63人いる。第3番目に多いのは同居している子供で、平均0.50人いる。

ある地域に1人でも子供のいる高齢女性は何人かというようにデータを再集計すると表5のようになる。これによれば、高梁市内に少なくとも1人の子供がいる高齢女性（つまり、同居する子供がいる、近隣地域に別居する子供がいる、高梁市内に別居する子供がいる、の少なくとも1つに該当する高齢女性）は62.1%であることが分かる⁽³⁾。また、岡山県内に地域を拡大すれば、その地域に1人でも子供が住んでいる高齢女性（つまり、同居する子供がいる、近隣地域に別居する子供がいる、高梁市内に別居する子供がいる、岡山県内に別居する子供がいる、の少なくとも1つに該当する高齢女性）は88.5%にのぼる。高梁市を除く岡山県内に子供がいるとき、その多くは総社市、倉敷市、岡山市といった高梁市の周辺市町村であることは既に指摘した。とすれば、90%近くの高齢女性には車で1時間以内で行ける場所に子供がいるということになる。

高梁市の高齢女性の48.0%が子供と同居していた（問25）。では、別居している子供は遠方に住んでいるかというところではなく、たいていの場合、車で1時間以内に行ける近くの場所に子供が住んでいるのだ。病気になったときの世話、生活費の支援、生活上の相談などのさまざまなサポートを、高齢者は子供に求めることが多い。高齢者にとって子供が最も頼りになるといえるだろう。子供が近くにいるとしても、日々の仕事や自分の家庭の家事や育児で忙しいので、高梁市の高齢者は日常的に子供とは頻繁に会っていないかもしれない。しかし、急病など万一のときにすぐ駆けつけて、助けてくれることを近くの子供に期待できる。筆者は民生委員や児童委員に頼んで調査票による調査を実施しただけでなく、80人ほどの調査対象者である高齢女性を自ら訪ね、

どのような暮らしをしているか聞き取り調査した。聞き取り調査によれば、農家の場合、田植えや稲刈りといった農繁期に子供がしばしば実家へ週末に戻り、農業を手伝っていた。子供がたいてい近くに住んでいるので、必要なときにサポートを提供してもらうことができるのだ。たとえ別居していても、近くに子供がいるということで高齢女性は安心しているようだった。

さて、岡山県内に少なくとも1人の子供がいる高齢女性は88.5%にのぼる。これを逆に言えば、11.5%の高齢女性には身近に子供が1人もいないということである。こうした高齢女性は人数の上では少数かもしれないが、生活上のサポートの入手で問題を抱えていると考えられる。聞き取り調査によれば、高梁市のそうした高齢女性は近隣地域にいる親族にいろいろなサポートを仰いだり、昔の職場仲間との社会関係を強化し、その社会関係を活用していろいろなサポートを入手していた。こうして、子供からサポートを求めにくいことを補完していた。身近に子供が1人もいない高齢女性に更に聞き取り調査をおこない、サポートの入手でどのような問題を抱えているか、行政はそうした高齢女性にどのような支援をしてあげたらよいかなどを明らかにしてゆきたい。

第7に、高梁市の中での違いを検討しておきたい。前述のように、高梁市は市街化が進んだ地区と農村的な地区から成り立っている。そこで、高梁市を都市部と農村部に2分して、主要な質問の回答が両地区の間で差があるかどうかを検討しておきたい。ここでは、旧高梁町と落合町を都市部とし、それ以外の地区を農村部と分類し、分析をおこなう⁽⁴⁾。

表6は都市部と農村部の高齢女性の、身体的健康度（問20）、老研式活動能力指標（問18）、モラール（問19）、生活満足度（問22）を示している。身体的

表6 都市部と農村部に住む高齢女性の比較

	都市部(208人)	農村部(315人)
身体的健康度(問20)	3.38(0.63)	3.32(0.62)
老研式活動能力指標(問18)	11.86(2.03)	11.48(2.26)
モラール(問19)	11.64(3.78)	11.05(3.50)
生活満足度(問22)	75.87(15.70)	74.58(16.50)

(注) 括弧内の数字は標準偏差。

身体的健康度は、4（健康）から1（健康でない）までの4段階に置き換えて、平均値を算出した。両群の間の値について平均値の差の検定をおこなった。

5%有意水準（両側危険率）ではいずれの項目も両群の間に有意差はない。

表7 集団加入に関する都市部と農村部に住む高齢女性の比較
(単位：人)

	都市部 (208人)	農村部 (315人)
町内会	205(98.6%)	302(95.9%)
防犯協会・消防団	5(2.4%)	13(4.1%)
婦人会	51(24.5%)	70(22.2%)
社会奉仕やボランティアの会	31(14.9%)	35(11.1%)
子供会 (父兄として)	0(0%)	7(2.2%)
P.T.A.	0(0%)	6(1.9%)
老人クラブ	65(31.3%)	87(27.6%)
コミュニティ協議会	8(3.8%)	20(6.3%)
愛育委員会	25(12.0%)	< 81(25.7%)* *
商店会	9(4.3%)	3(1.0%)
同業の組合または団体	14(6.7%)	3(1.0%)
農協	27(13.0%)	< 128(40.6%)* *
生協	7(3.4%)	11(3.5%)
政党・政治団体	4(1.9%)	6(1.9%)
労働組合	0(0%)	0(0%)
宗教団体	18(8.7%)	< 49(15.6%)*
遺族会	12(5.8%)	30(9.5%)
学術研究団体	3(1.4%)	0(0%)
県人会・同郷団体	1(0.5%)	0(0%)
趣味の会・スポーツ団体	63(30.3%)	> 58(18.4%)*
ロータリークラブ・ライオンズクラブ	2(1.0%)	0(0%)
講・無尽	1(0.5%)	3(1.0%)
住民運動の団体	2(1.0%)	14(4.4%)
その他	3(1.4%)	9(2.9%)
その他	1(0.5%)	5(1.6%)
いずれの団体にも加入していない	58(27.9%)	71(22.5%)

(注) それぞれの集団に加入する人数を示す。

括弧内の数字はパーセンテージ。

χ^2 検定をおこなった。 ** $p < .01$ * $p < .05$

健康度は序列尺度であるが、便宜的に間隔尺度と見なし、4 (健康) から1 (健康でない) までの4段階に置き換えて、平均値を計算した。この表より、例えば、都市部に住む高齢女性のモラルの平均は11.64であり、農村部の高齢女性のそれは11.05であるといったことを読み取れる。平均値の差の検定によれば、都市部と農村部の高齢女性の間にはいずれの項目でも有意差はない。

次に、集団加入を見ると(表7)、いくつかの集団加入は都市部と農村部の高齢女性の間で有意差がある。都市部の高齢女性は農村部の高齢女性よりも趣味の会・スポーツ団体に加入しているのに対し、後者は前者よりも愛育委員会、農協、宗教団体に加入している。例えば、都市部に住む30.3%の高齢女性が趣味の会・スポーツ団体に加入しているのに対し、農村部に住む高齢女性のその割合は18.4%にすぎない

($p < .05$)。さて、趣味の会・スポーツ団体は人々が自らの興味や関心を満たすために自主的に加入する集団である。都市部でそうした自主加入型集団への加入が盛んであることは注目しておくべきだろう。しかしながら、大部分の集団の加入率は都市部と農村部の間で有意差がない。例えば、都市部に住む2.4%の高齢女性が防犯協会・消防団に加入しており、農村部に住む4.1%の高齢女性はその集団に加入しているだけだ。防犯協会・消防団のように、多くの集団の加入率は10%未満と低い。このこともあって、都市部と農村部の間で加入率において有意差がある集団は4つしかなかった。

町内会、婦人会、老人クラブといった地域集団が実施する各種の活動への参加が都市部と農村部で差があるかどうかを見ておきたい(表8)。農村部の高齢女性は都市部の高齢女性よりもそうした活動に概

表8 活動参加に関する都市部と農村部に住む高齢女性の比較
(単位：人)

	都市部 (208人)	農村部 (315人)
(1)消防援助	4(1.9%)	5(1.6%)
(2)夜警	1(0.5%)	1(0.3%)
(3)空き缶拾い	47(22.6%)	< 106(33.7%) **
(4)空き缶・空き瓶回収	46(22.1%)	55(17.5%)
(5)清掃	76(36.5%)	106(33.7%)
(6)消毒	8(3.8%)	11(3.5%)
(7)草花を道路に植える	22(10.6%)	45(14.3%)
(8)道路の維持・修繕作業	22(10.6%)	55(17.5%)
(9)募金に協力	67(32.3%)	< 157(49.8%) **
(10)成人式・敬老会	41(19.7%)	56(17.8%)
(11)運動・レクリエーション・旅行	66(31.7%)	< 138(43.8%) **
(12)盆踊り・祭り	53(25.5%)	< 115(36.5%) *
(13)慶弔の世話	107(51.4%)	137(43.5%)
(14)総会に出席	86(41.3%)	> 81(25.7%) **
(15)その他	4(1.9%)	7(2.2%)
(16)いずれの活動にも参加したことがない	51(24.5%)	> 53(16.8%) *

(注) それぞれの活動に参加した人数を示す。括弧内の数字はパーセンテージ。

χ^2 検定をおこなった。 ** p<.01 * p<.05

表9 都市部と農村部に住む高齢女性のパーソナル・ネットワークの比較
(単位：人)

	近隣地域	高梁市内	岡山県内	岡山県外	合計
都市部の高齢女性 (208人)					
同居家族	—	—	—	—	1.06(0.98)
親 族	0.44(0.80)	0.36(0.64) **	0.75(1.10) **	0.30(0.76)	1.86(1.57) ** *
近 隣 者	0.97(1.32) *	0.14(0.50)	0(0)	0(0)	1.12(1.45) *
友 人	0.38(0.87) *	0.52(1.15)	0.07(0.38)	0.01(0.10)	0.98(1.58) *
職場仲間	0.03(0.19)	0.05(0.34)	0.00(0.07)	0(0)	0.09(0.42)
合 計	1.82(1.77)	1.08(1.55)	0.83(1.17) *	0.31(0.77)	5.11(2.60) *
農村部の高齢女性 (315人)					
同居家族	—	—	—	—	1.17(1.04)
親 族	0.36(0.81)	0.59(0.91) **	1.16(1.45) **	0.29(0.64)	2.40(2.03) ** *
近 隣 者	1.29(1.49) *	0.17(0.63)	0(0)	0(0)	1.45(1.53) *
友 人	0.23(0.72) *	0.34(0.99)	0.07(0.42)	0.00(0.06)	0.64(1.43) *
職場仲間	0.06(0.41)	0.01(0.13)	0.01(0.08)	0(0)	0.08(0.45)
合 計	1.93(1.92)	1.11(1.55)	1.23(1.53) *	0.29(0.65)	5.73(3.25) *

(注) 括弧内の数字は標準偏差。

両群の間の対応する社会関係数について平均値の差の検定をおこなった。両側検定。

** p<.01 * p<.05

して参加している。つまり、前者は後者よりも空き缶拾い、募金の協力、運動会・レクリエーション・旅行、盆踊り・祭りに参加している。そして、いずれの活動にも参加したことがない高齢女性の割合は都市部の方が高い。例えば、36.5%の農村部の高齢

女性は盆踊りや祭りに参加しているのに対し、都市部のその値は25.5%である(p<.01)。ただし、総会への出席だけは都市部の方が活発である。

表9は都市部と農村部の高齢女性のパーソナル・ネットワークを示している。農村部の高齢女性は都

市部の高齢女性よりも多くの親族関係を組織している。数値をあげると、前者は1.86の親族関係を取り結んでいるのに対し、後者のその値は2.40である ($p < .01$)。親族の住む地域別に見ると、前者は後者よりも高梁市内と県内で多くの親族関係を取り結んでいる。親族関係と同じように、近隣関係も農村部の高齢女性の方が多い。つまり、農村部の高齢女性は1.45の近隣関係を取り結んでいたのに対し、都市部の高齢女性の近隣関係は1.12にすぎなかった ($p < .05$)。ところが、親族関係と近隣関係とは逆に、友人関係は都市部の高齢女性の方がより多く取り結んでいる。都市部の高齢女性は0.98の友人関係を組織していたのに対し、農村部の高齢女性の友人関係は0.64であった ($p < .05$)。パーソナル・ネットワークの規模 (=個人が取り結ぶ各種の社会関係の合計) を見ると、農村部に住む高齢女性は都市部の高齢女性よりも規模の大きなパーソナル・ネットワークを組織している。つまり、前者のパーソナル・ネットワークの規模は5.73であるのに対し、後者のそれは5.11である ($p < .05$)。

(注)

(1)住民基本台帳によれば、1997年11月1日現在における高梁市の人口は24,495人であった。そのうち、年少人口の割合は14.1%であり、高齢人口の割合は26.0%であった。

(2)高梁市では、老人会は老人クラブとっている。

(3)聞き取り調査によれば、高梁市の農村で子供夫婦と同居しているということは実態では同居とは違っているようだ。農家は広い土地を持っているので、家は母屋と離れといったようにいくつかの家屋からなっている。高齢者と子供夫婦は多くの家では別棟で暮らしている。食事は一緒にするが、あとは別棟

で生活をおくり、お互いに干渉し合わないようになっているようだ。なかには、高齢者は若い人たちと好みが違うということで、食事も別々にしている家もあった。農村での同居は、実態としては子供(夫婦)がすぐ近くで別居していることに近いようだ。

(4)旧高梁町と落合町の中にも農村があるし、その他の地区にも小規模な市街地がある。だから、地区名による地域の分類は必ずしも正確ではない。しかし、旧高梁町と落合町の住民の90%以上が市街地と見なされる地域に住んでいるから、地区名によって都市部と農村部に分類することは研究目的からは差し支えないだろう。

(引用文献)

- 中村八朗. 1964. 「三鷹市の住民組織—近郊都市化に伴うその変質, 近郊都市の変貌過程—」, 『三鷹市総合調査報告』, ICU 社会科学研究所, 99-178頁。
- 野邊政雄・田中宏二・兵藤好美. 1996. 「高齢女性の社会的支援ネットワーク特性と精神的健康の基礎分析(その1)」, 『岡山大学教育学部研究集録』, 第102号, 55-72頁。
- 鈴木 広. 1976. 「都市社会構造論序説」, 九州大学社会学研究会(編), 『現代社会学の成果と課題』, 70-85頁。

〔謝 辞〕

調査を実施するにあたり、高梁市役所民生部保健福祉課課長補佐(当時)安本基寛氏をはじめとする同課職員の方々にたいへんお世話になりました。調査にあたられたのは、同市の民生委員と児童委員の方々でした。また、高梁市の多くの女性が貴重な時間をさいてこの調査に快く応じてくれました。これらの方々に感謝します。

問 1 あなたがお生まれになったのはどこですか。

(1) 現住所で生まれた	74	(14.1%)
(2) 現住所以外の高梁市内で生まれた	196	(37.5%)
(3) 国内その他の場所	247	(47.2%)
(4) 外 国	6	(1.1%)
合 計	523	(100.0%)

〔(3) 国内その他の場所の地方別内訳〕

関東地方	2	(0.4%)	その他の中国地方	14	(2.7%)
中部地方	3	(0.6%)	四国地方	2	(0.4%)
近畿地方	14	(2.7%)	九州地方	5	(1.0%)
岡山県	207	(39.6%)	合 計	247	(47.2%)

〔(3) 国内その他の場所の人口規模別内訳〕

村	4	(0.8%)	20万人以上50万人未満の市	12	(2.3%)
町	147	(28.1%)	50万人以上100万人未満の市	5	(1.0%)
5万人未満の市	45	(8.6%)	100万人以上の市	16	(3.1%)
5万人以上10万人未満の市	14	(2.7%)	合 計	247	(47.2%)
10万人以上20万人未満の市	4	(0.8%)			

1995年の人口規模にもとづいて分類した。

問 2 (現住所あるいは高梁市生まれの人に) それではずっと高梁市内に住んでおられるのですか。

(1) 生まれてずっと高梁市内に住んでいる	197	(37.7%)
(2) 高梁市内で生まれたが、10年以内の他出経験あり	51	(9.8%)
(3) 高梁市内で生まれたが、10年以上の他出経験あり	22	(4.2%)
(4) 非該当 (現住所あるいは高梁市以外で生まれた)	253	(48.4%)
合 計	523	(100.0%)

問 3 あなたは高梁市内に合計して何年間お住まいですか。(7カ月以上12カ月未満は1年に切り上げる)

高梁市での平均居住年数は57.68であり、標準偏差は14.60である。

問 4 では、あなたは現住所に合計して何年間お住まいですか。(7カ月以上12カ月未満は1年に切り上げる)

現住所での平均居住年数は47.99であり、標準偏差は16.56である。

問 5 あなたは10歳から20歳までの10年間はどこで一番長く過ごしましたか。

(1) 現住所ですごした	86	(16.4%)
(2) 現住所以外の高梁市内ですごした	193	(36.9%)
(3) 国内その他の場所	239	(45.7%)
(4) 外 国	5	(1.0%)
合 計	523	(100.0%)

〔(3) 国内その他の場所の内訳〕

関東地方	1	(0.2%)	その他の中国地方	19	(3.6%)
中部地方	4	(0.8%)	四国地方	1	(0.2%)
近畿地方	10	(1.9%)	九州地方	4	(0.8%)
岡山県	200	(38.2%)	合 計	239	(45.7%)

「高梁市高齢女性のパーソナル・ネットワークと主観的幸福感調査」の基礎分析

〔3〕 国内その他の場所の人口規模別内訳

村	5 (1.0%)	20万人以上50万人未満の市	7 (1.3%)
町	164 (31.4%)	50万人以上100万人未満の市	2 (0.4%)
5万人未満の市	30 (5.7%)	100万人以上の市	11 (2.1%)
5万人以上10万人未満の市	10 (1.9%)	合計	239 (54.3%)
10万人以上20万人未満の市	10 (1.9%)		

回答者が15歳当時の人口規模で分類した。

問6 あなたは現住所に来る前はどこに住んでおられましたか。

(1) はじめからここに（現住所）に住んでいる	71 (13.6%)
(2) 高梁市内の別の場所に住んでいた	225 (43.0%)
(3) 国内その他の場所	224 (42.8%)
(4) 外国	3 (0.6%)
合計	523 (100.0%)

〔3〕 国内その他の場所の内訳

関東地方	3 (0.6%)	その他の中国地方	10 (1.9%)
中部地方	3 (0.6%)	四国地方	2 (0.4%)
近畿地方	11 (2.1%)	九州地方	4 (0.8%)
岡山県	191 (36.5%)	合計	224 (42.8%)

〔3〕 国内その他の場所の人口規模別内訳

村	4 (0.8%)	20万人以上50万人未満の市	9 (1.7%)
町	133 (25.4%)	50万人以上100万人未満の市	13 (2.5%)
5万人未満の市	38 (7.3%)	100万人以上の市	13 (2.5%)
5万人以上10万人未満の市	9 (1.7%)	合計	224 (42.8%)
10万人以上20万人未満の市	5 (1.0%)		

1995年の人口規模にもとづいて分類した。

問7 昭和62年（1987年）から現在までの10年間で、住所を何回変わりましたか。

平均転居回数は0.13であり、標準偏差は0.58である。ちなみに、1回以上転居した回答者は46人（8.8%）であった。

問8 この調査では、自治会、町内会、組合などといった地域の住民自治組織を町内会と統一して呼ばせていただきます。お宅は町内会に加入していらっしゃいますか。

(1) 加入している	507 (96.9%)	(2) 加入していない	16 (3.1%)	合計	523 (100.0%)
------------	-------------	-------------	-----------	----	--------------

問9 (町内会に加入している人に) 現在、町内会の役員をされていますか。

(1) 役員をしている	57 (10.9%)	(3) 非該当（町内会に加入していない）	16 (3.1%)
(2) 役員をしていない	450 (86.0%)	合計	523 (100.0%)

問10 あなたの町内にある町内会、婦人会、老人クラブが主催する活動で、あなたが過去1以内に参加したのはどんなことですか。次のうちからあげてください。いくつあげられても結構です。

(1) 消防援助	9 (1.7%)	(9) 募金の協力	224 (42.8%)
(2) 夜警	2 (0.4%)	(10) 成人式・敬老会	97 (18.5%)
(3) 空き缶拾い	153 (29.3%)	(11) 運動・レクリエーション・旅行	204 (39.0%)
(4) 空き缶・空き瓶回収	101 (19.3%)	(12) 盆踊り・祭り	168 (32.1%)
(5) 清掃	182 (34.8%)	(13) 慶弔の世話	244 (46.7%)
(6) 消毒	19 (3.6%)	(14) 総会に出席	167 (31.9%)

(7) 草花を道路に植える	67 (12.8%)	(15) その他の活動	11 (2.1%)
(8) 道路の維持・修繕作業	77 (14.7%)	(16) いずれの活動にも参加したことがない	104 (19.9%)

問11 現在、あなたが加入している組織や団体をすべてあげてください。いくつあげられても結構です。

(1) 防犯協会・消防団	18 (3.4%)
(2) 婦人会	121 (23.1%)
(3) 社会奉仕やボランティアの会	66 (12.6%)
(4) 子供会 (父兄として)	7 (1.3%)
(5) P. T. A.	6 (1.1%)
(6) 老人クラブ	152 (29.1%)
(7) コミュニティ協議会	28 (5.4%)
(8) 愛育委員会	106 (20.3%)
(9) 商店会	12 (2.3%)
(10) 同業の組合または団体	17 (3.3%)
(11) 農 協	155 (29.6%)
(12) 生 協 (生活協同組合)	18 (3.4%)
(13) 政党・政治団体	10 (1.9%)
(14) 労働組合	0 (0%)
(15) 宗教団体	67 (12.8%)
(16) 遺族会	42 (8.0%)
(17) 学術研究団体	3 (0.6%)
(18) 県人会・同郷団体	1 (0.2%)
(19) 趣味の会・スポーツ団体 (公民館やカルチャー・センターの活動も含む)	121 (23.1%)
(20) ロータリークラブ・ライオンズクラブ	2 (0.4%)
(21) 講・無尽	4 (0.8%)
(22) 住民運動の団体	16 (3.1%)
(23) その他	12 (2.3%)
(24) その他	6 (1.1%)
(25) いずれの団体にも加入していない	129 (24.7%)

問12 公民館やカルチャー・センターで行われる各種講座や同好会などに過去1年以内に参加されたことはありますか。

(1) ある	177 (33.8%)	(2) ない	346 (66.2%)	合 計	523 (100.0%)
--------	-------------	--------	-------------	-----	--------------

問13 (各種講座や同好会に参加された方へ) 参加されていたときは、どのくらい頻繁に活動されましたか。

(1) ほとんど毎日	5 (1.0%)
(2) 週に1～2回	23 (4.4%)
(3) 月に2～3回	44 (8.4%)
(4) 月に約1回	32 (6.1%)
(5) 年に数回	58 (11.1%)
(6) ほとんど活動しなかった	15 (2.9%)
(7) 非該当 (各種講座や同好会に参加しなかった)	346 (66.2%)
合 計	523 (100.0%)

問14 (各種講座や同好会に参加された方へ) どのような各種講座や同好会に参加したのですか。いくつでもお答えください。

(1) 趣味・娯楽 (絵画, 陶芸, 手芸, 踊り, 俳句など)	106 (20.3%)
(2) スポーツ (体操, ゲートボール, 水泳など)	55 (10.5%)
(3) 教養・文化 (郷土史や時事問題の勉強会, 読書会, 英会話など)	35 (6.7%)
(4) 生活実務 (料理, 洋裁, 着付けなど)	70 (13.4%)

(5) その他 3 (0.6%)

問15 一般的にいて「近所づき合い」の仕方には、いろいろな程度ものがありますが、あなたは、次のうちどれが望ましいものとお考えですか。1つだけ選んで下さい。

- | | |
|---------------------------------|-------------|
| (1) 心をうちわって、ざっくばらんに話したり相談したりする | 148 (28.3%) |
| (2) お互いの生活を大切に節度をもってつきあう | 289 (55.3%) |
| (3) ほどほどに調子を合わせるようにする | 59 (11.3%) |
| (4) 必要最小限のことに限ってつき合う (あいさつだけなど) | 23 (4.4%) |
| (5) 近所づき合いはできるだけしない | 2 (0.4%) |
| (6) その他 | 2 (0.4%) |

問16 では、あなたはこの町内で、実際にどの程度の近所づき合いをされていますか。

- | | |
|---------------------------------|-------------|
| (1) 心をうちわって、ざっくばらんに話したり相談したりする | 109 (20.8%) |
| (2) お互いの生活を大切に節度をもってつきあう | 308 (58.9%) |
| (3) ほどほどに調子を合わせるようにする | 70 (13.4%) |
| (4) 必要最小限のことに限ってつき合う (あいさつだけなど) | 24 (4.6%) |
| (5) 近所づき合いはほとんどない | 10 (1.9%) |
| (6) その他 | 2 (0.4%) |

問17 外でちょっと立ち話をするような近所の人、何人いらっしゃいますか。こうした近所づきあいをされる相手のご夫婦の場合は、2人として計算して下さい。

平均は8.06人、標準偏差は7.18である。

問18 毎日の生活についてお伺いします。以下の質問のそれぞれについて、あなたが普段やっていることには「はい」、やっていないことには「いいえ」とお答え下さい。

	はい	いいえ
(1) バスや電車を使って1人で外出できますか。	461 (88.1%)	62 (11.9%)
(2) 日用品の買い物ができますか。	485 (92.7%)	38 (7.3%)
(3) 自分で食事の用意ができますか。	508 (97.1%)	15 (2.9%)
(4) 請求書の支払いができますか。	497 (95.0%)	26 (5.0%)
(5) 銀行預金・郵便貯金の出し入れが自分でできますか。	480 (91.8%)	43 (8.2%)
(6) 年金・税金などの書類が自分で書けますか。	456 (87.2%)	67 (12.8%)
(7) 新聞を読んでいますか。	436 (83.4%)	87 (16.6%)
(8) 本や雑誌を読んでいますか。	428 (81.8%)	95 (18.2%)
(9) 健康についての記事や番組に関心がありますか。	513 (98.1%)	10 (1.9%)
(10) 友だちの家をたずねることがありますか。	414 (79.2%)	109 (20.8%)
(11) 家族や友だちの相談にのることがありますか。	449 (85.9%)	74 (14.1%)
(12) 病人を見舞うことができますか。	491 (93.9%)	32 (6.1%)
(13) 若い人に自分から話しかけることができますか。	465 (88.9%)	58 (11.1%)

(1)～(5)の質問項目は手段的自立尺度、(6)～(9)の質問項目は知的能動性尺度、(10)～(13)の質問項目は社会的役割尺度を構成する。そして、(1)～(13)すべての質問項目は老研式活動能力指標尺度を構成する。「はい」を1、「いいえ」を0とし、それぞれの尺度ごとに質問項目を加算した。手段的自立尺度の平均は4.65、標準偏差は0.97、知的能動性尺度の平均は3.50、標準偏差は0.84、社会的役割尺度の平均は3.48、標準偏差は0.90、老研式活動能力指標尺度の平均は11.63、標準偏差は2.18である。

問19 現在のあなたのお気持ちについてお伺いします。どちらかお答えにくい質問があるかもしれませんが、「はい」「いいえ」でお答えください。

	はい	いいえ
(1) あなたは自分の人生は年をとるにしたがってだんだん悪くなってゆくと感じますか。*	184 (35.2%)	339 (64.8%)
(2) あなたは現在、去年と同じくらいに元気があると思っていますか。	352 (67.3%)	171 (32.7%)
(3) さびしいと感じることがありますか。*	176 (33.7%)	347 (66.3%)
(4) ここ1年くらい、小さなことを気にするようになった、と思いますか。*	163 (31.2%)	360 (68.8%)
(5) 家族や親戚や友人との行き来に満足していますか。	481 (92.0%)	42 (8.0%)
(6) 年をとって前よりも役に立たなくなったと思いますか。*	340 (65.0%)	183 (35.0%)
(7) 心配だったり、気になったりして眠れないことがありますか。*	254 (48.6%)	269 (51.4%)
(8) 年をとるということは若い時に考えていたより、よいと思いますか。	180 (34.4%)	343 (65.6%)
(9) 生きていても仕方がないと思うことがありますか。*	65 (12.4%)	458 (87.6%)
(10) 若い時とくらべて、今のほうが幸せだと思いますか。	396 (75.7%)	127 (24.3%)
(11) 悲しいことがたくさんあると感じますか。*	77 (14.7%)	446 (85.3%)
(12) 不安に思うことがたくさんありますか。*	127 (24.3%)	396 (75.7%)
(13) 前よりも腹を立てる回数が多くなったと思いますか。*	90 (17.2%)	433 (82.8%)
(14) 生きることは大変さびしいと思いますか。*	328 (62.7%)	195 (37.3%)
(15) 今の生活に満足していますか。	446 (85.3%)	77 (14.7%)
(16) 物ごとをいつも深刻にうけとめる方ですか。*	245 (46.8%)	278 (53.2%)
(17) 心配ごとがあるとすぐおろおろする方ですか。*	178 (34.0%)	345 (66.0%)

*は逆転項目を示す。

(1), (2), (6), (8), (10)の質問項目は老いについての態度尺度, (3), (5), (9), (11), (14), (15)の質問項目は孤独感・不満足感尺度, (4), (7), (12), (13), (16), (17)の質問項目は心理的動揺尺度を構成する。そして, (1)~(17)すべての質問項目は主観的幸福感尺度(PGC モーラル・スケール)を構成する。「はい」を1, 「いいえ」を0とし(逆転項目は逆に「はい」を0, 「いいえ」を1とし), それぞれの尺度ごとに質問項目を加算した。老いについての態度尺度の平均は2.77, 標準偏差は1.38, 孤独感・不満足感尺度の平均は4.54, 標準偏差は1.29, 心理的動揺尺度の平均は3.98, 標準偏差は1.77, 主観的幸福感尺度の平均は11.29, 標準偏差は3.62である。

問20 あなたの身体的な健康についてお伺いします。現在、あなたは健康ですか。それとも病気がちですか。

(1) 健康である。	221 (42.3%)
(2) あまり健康であるとはいえないが、病気ではない。	266 (50.9%)
(3) 病気がちで寝込むことがある。	33 (6.3%)
(4) 病気で1日中寝込んでいる。	3 (0.6%)
合計	523 (100.0%)

問21 あなたが、自分の生活の中で、一番生きがいを感じているのものは、次のうちどれでしょうか。1つだけ選んで下さい。

(1) 家庭の建設にいそしんだり、子どもや孫の成長を見守ったりすることに、一番生きがいを感じる	308 (58.9%)
(2) 会社で仕事をすることに、一番生きがいを感じる	16 (3.1%)
(3) ボランティア活動や町内会活動に、一番生きがいを感じる	12 (2.3%)
(4) 趣味や娯楽で余暇を楽しむことに、一番生きがいを感じる	120 (22.9%)
(5) 特別生きがいを感じるようなものはない	56 (10.7%)
(6) その他	11 (2.1%)

問22 あなたは毎日の生活に、100点満点でいえば、何点ぐらいの生活満足感をお持ちですか。

平均点は75.09, 標準偏差は16.18である。

問23 あなたは現在、結婚しておられますか。次のうち、あてはまるものを1つ選んで下さい。

(1) 既婚	304 (58.1%)	(4) 未婚	6 (1.1%)
(2) 死別	206 (39.4%)	合計	523 (100.0%)

(3) 離婚・別居

7 (1.3%)

問24 (夫と死別ないし離婚・別居した人へ) 夫とはいつ死別(あるいは、離婚・別居)されたのですか。

[夫と死別した年]

1945年～1950年	7 (1.3%)	1981年～1990年	65 (12.4%)
1951年～1960年	5 (1.0%)	1991年～	69 (13.2%)
1961年～1970年	18 (3.4%)	合 計	206 (39.4%)
1971年～1980年	42 (8.0%)		

[夫と離婚・別居した年]

1946年～1950年	2 (0.4%)	1981年～1990年	1 (0.2%)
1951年～1960年	2 (0.4%)	合 計	7 (1.3%)
1961年～1970年	2 (0.4%)		

問25 現在一緒に生活しておいでな家族員について、続柄、年齢、働いていらっしゃるかどうかを教えてください。(子供、または子供夫婦と同居している場合には、その子供の続柄(長男、次女など)を聞いておくこと。)

[夫]	あ り 305 (58.3%)	な し 218 (41.7%)
[同居している子供]	あ り 251 (48.0%)	な し 272 (52.0%)
[同居している孫]	あ り 176 (33.7%)	な し 347 (66.3%)

[家族類型]

本人のみ	91 (17.4%)
本人+夫	166 (31.7%)
本人+子供(夫妻)	30 (5.7%)
本人+子供(夫妻)+孫	73 (14.0%)
本人+子供(夫妻)+孫+その他の親族	12 (2.3%)
本人+夫+子供(夫妻)	37 (7.1%)
本人+夫+子供(夫妻)+孫	70 (13.4%)
本人+夫+子供(夫妻)+孫+その他の親族	18 (3.4%)
その他	26 (5.0%)
合 計	523 (100.0%)

問26 もしあなたが2～3カ月病気やけがで入院した場合、あなたの看病や世話を頼むことができる人がいますか。もし頼む人がいれば、その人の名前を教えてください。

問27 急に2～3万円のお金が必要になったとき、気がねなく借りられる人はいますか。もしあれば、その人の名前を教えてください。

問28 (働いている方に)あなたの職場での仕事について気軽に話をしたり、相談をしたりすることのできる人がいますか。もしあれば、その人の名前を教えてください。

問29 近所の陰口や家族の問題などでちょっとした心配事があるとき、話を聞いてくれる人がいますか。もしあれば、その人の名前を教えてください。

問30 何かのことで失望したり、悲しい出来事を体験してひどく落ち込んでいるとき、心からなぐさめてくれる人はいますか。もしあれば、その人の名前を教えてください。

1週間、家族全員で家を空けるときの、植物に水をやったり、ペットに餌をやったり、配達品を預かってもらった
問31 りといったような留守の間の世話を誰かに頼むことができますか。もし頼む人がいれば、その人の名前を教えてください。ここでは、同居する家族は除いて下さい。

調味料や自転車を借りたり、買い物などに車に乗せてもらったりすることはありますか。もし頼む人がいれば、
問32 その人の名前を教えてください。ここでは、同居する家族は除いて下さい。

過去3カ月以内に、電話で世間話をしたり、一緒に食事をしたり、お茶を飲んだり、一緒に散歩したりするよう
問33 なことをした人はいますか。もしあれば、その人の名前を教えてください。ここでは、同居する家族は除いて下さい。

以上の8つの質問で、おつき合いをされている相手の方のお名前をあげていただきました。それぞれの方について、もう少し詳しくお伺いします。

- 問34**
1. その方の性別を教えてください。
 2. その方とは、どのような間柄ですか。
 3. その方は何歳ぐらいですか。
 4. その方が現在住んでおられるところはどこですか。
 5. あなたはその方と、どの程度頻繁にお会いになりますか。
 6. あなたはその方と、手紙や電話でどの程度頻繁に連絡を取り合いますか。

回答者は問26～問33の質問に、重複を除いて2,866人の名前をあげた。つまり1人あたり5.48人をあげた。これを相手の性別、間柄別、居住地別に集計すると次のようになる。単位は人であり、括弧内の数字は標準偏差である。

〔性別〕

男 1.65 (1.30) 女 3.83 (2.50) 合計 5.48 (3.02)

〔間柄×居住地〕

	近隣地域	高梁市内	岡山県内	岡山県外	合計
同居家族	—	—	—	—	1.13(1.01)
親 族	0.39(0.80)	0.50(0.82)	1.00(1.33)	0.29(0.69)	2.18(1.88)
近 隣 者	1.16(1.43)	0.16(0.58)	0 (0)	0 (0)	1.32(1.47)
友 人	0.29(0.78)	0.41(1.06)	0.07(0.40)	0.01(0.07)	0.77(1.50)
職場仲間	0.05(0.34)	0.03(0.24)	0.01(0.07)	0 (0)	0.08(0.44)
合 計	1.89(1.86)	1.10(1.54)	1.07(1.41)	0.30(0.70)	5.48(3.02)

相手の居住地別の合計には、同居家族関係数1.13が含まれていない。居住地別の合計を加算したものに同居家族関係数を加えると、総合計5.48になる。

問35 いまの8つの質問で名前があがらなかった、別居されている子供さんがおられますか。

(1) いる 313 (59.8%) (2) いない 210 (40.2%) 合計 523 (100.0%)

問36 名前があがらなかった、別居されてる子供さんは、全部で何人おられますか。別居されているそうした子供さんそれぞれについて、もう少し詳しくお伺いします。

回答者はこの質問に565人をあげた。つまり、1人あたり1.08人をあげた。これを子供の性別に集計すると次のようになる。単位は人であり、括弧内の数字は標準偏差である。

〔性別〕

男 0.57 (0.81) 女 0.51 (0.80) 合計 1.08 (1.13)

同居及び別居している回答者の子供を集計すると次のようになる。

「高梁市高齢女性のパーソナル・ネットワークと主観的幸福感調査」の基礎分析

	男	女	合計
同居している子供 (問25)	0.40 (0.50)	0.10 (0.32)	0.50 (0.53)
問26～問33であげられた別居している子供	0.31 (0.56)	0.67 (0.80)	0.98 (1.01)
問26～問33であげられなかった別居している子供	0.57 (0.81)	0.51 (0.80)	1.08 (1.13)
合計	1.27 (0.94)	1.28 (1.07)	2.55 (1.22)

問37 (子供と同居していない方へ) お子さんとはいずれは同居したいと考えていますか。次のうち、あなたのお気持ちに最も近いのはどれですか。

(1) 今でも、可能なら同居したい	69	(13.2%)
(2) 自分が健康を害したり、家事などが不自由になったら同居したい	67	(12.8%)
(3) 夫が健康を害したら、同居したい	5	(1.0%)
(4) 1人になったら同居したい	22	(4.2%)
(5) 1人になって、自分が健康を害したり、家事などが不自由になったら同居したい	50	(9.6%)
(6) 同居は全く考えていない	66	(12.6%)
(7) その他	10	(1.9%)
(8) 非該当 (子供と同居している)	234	(44.7%)
合計	523	(100.0%)

問38 現在あなたが取り結んでおられる人間関係を全体として見た場合、周囲の人々との関係にどの程度満足していますか。

(1) まったく満足している	96	(18.4%)	(4) 少しだけ満足している	19	(3.6%)
(2) かなり満足している	159	(30.4%)	(5) 全然満足していない	3	(0.6%)
(3) まあまあ満足している	246	(47.0%)	合計	523	(100.0%)

問39 あなたのお住まいは次のどれにあたりますか。

(1) 持ち家 (一戸建て)	499	(95.4%)	(5) 市・県営住宅 (賃貸)	8	(1.5%)
(2) 持ち家 (マンションなど)	0	(0%)	(6) 公団公社住宅 (賃貸)	2	(0.4%)
(3) 民間の借家 (一戸建て)	11	(2.1%)	(7) 社宅・公務員住宅	1	(0.2%)
(4) 民間アパート・マンション (賃貸)	2	(0.4%)	合計	523	(100.0%)

問40 お宅では、今後とも現在住んでいる家 (現住所) に住むつもりでしょうか。

(1) 今後ともずっと住むつもりである	503	(96.2%)
(2) できれば転居したい	6	(1.1%)
(3) 転居する予定である (ほぼ決定している)	2	(0.4%)
(4) わからない	12	(2.3%)
合計	523	(100.0%)

問41 あなたは、高梁市内にずっと住みたいと思いますか。次のうち、あなたのお考えに近いものを1つ選んで下さい。

(1) ぜひ、いつまでもここに住んでいたい	492	(94.1%)
(2) ここに住んでいたくないが、仕方がないのでずっとすむことになるだろう	22	(4.2%)
(3) できれば他に移りたい	6	(1.1%)
(4) 最終的には、ふるさとに帰りたい	0	(0%)

(5) ここで暮らしたくない。よそで暮らしたいと思っている	0	(0%)
(6) その他	3	(0.6%)
合 計	523	(100.0%)

問42 同居しておられない、あなたないし夫の両親のどなたかは高梁市内にお住まいですか。

(1) いる	77	(14.7%)	(2) いない	446	(85.3%)	合 計	523	(100.0%)
--------	----	---------	---------	-----	---------	-----	-----	----------

問43 同居しておられない、あなたないし夫の兄弟姉妹のどなたかは高梁市内にお住まいですか。

(1) いる	313	(59.8%)	(2) いない	210	(40.2%)	合 計	523	(100.0%)
--------	-----	---------	---------	-----	---------	-----	-----	----------

問44 あなたの現在のお仕事は、大きく分けてこの表のどれにあたりますか。

(1) 経営者（重役）、役員	13	(2.5%)
(2) 常時雇用されている一般従業者	6	(1.1%)
(3) 臨時雇用、パート・アルバイト	19	(3.6%)
(4) 単独（個人・自由業）	33	(6.3%)
(5) 自営業主（雇っている人が1—4人まで）	9	(1.7%)
(6) 家族従業者	105	(20.1%)
(7) 無職（専業主婦）	336	(64.2%)
(8) アパート経営	2	(0.4%)
合 計	523	(100.0%)

問45 （現在、働いている方へ）従業員（雇われている人）は、会社全体で何人くらいですか。あるいは、役所にお勤めですか。

(1) 官公庁	0	(0%)	(6) 300—499人	2	(0.4%)
(2) なし	136	(26.0%)	(7) 500—999人	0	(0%)
(3) 1—4人	24	(4.6%)	(8) 1000人以上	0	(0%)
(4) 5—29人	15	(2.9%)	(9) 非該当（無職・アパート経営）	338	(64.6%)
(5) 30—299人	8	(1.5%)	合 計	523	(100.0%)

問46 （現在、働いている方へ）従業員で、あなたはどんな仕事を現在されておられるのですか。

(1) 農林漁業従事者	128	(24.5%)
(2) 事務的職業（一般事務、経理事務、通信士など）	5	(1.0%)
(3) 販売的職業（販売店員、外交員など）	15	(2.9%)
(4) サービス的職業（接客員、理容師、料理人、家政婦、清掃員、運転手など）	17	(3.3%)
(5) 保安的職業（警官、自衛官、守衛など）	0	(0%)
(6) 生産工程従事者（工具、大工、とび職、採掘作業など）	12	(2.3%)
(7) 専門的職業Ⅰ（研究者、大学教員、医師、弁護士、税理士など）	1	(0.2%)
(8) 専門的職業Ⅱ（保育、高校・中学校・小学校教員、看護婦、栄養士など）	2	(0.4%)
(9) 専門的職業Ⅲ（著述家、芸術家、宗教家、デザイナー、カメラマン、プロスポーツ選手など）	1	(0.2%)
(10) 管理的職業（課長以上の管理職、議員、駅長、局長など）	4	(0.8%)
(11) 非該当（無職・アパート経営）	338	(64.6%)
合 計	523	(100.0%)

問47 （現在、働いている方へ）あなたは1週間に何日くらい働いていらっしゃいますか。

働いている185人の働いている平均日数は4.67、標準偏差は1.53である。

問48 あなたが50歳頃のお仕事は、大きく分けてこの表のどれにあたりますか。

(1) 経営者（重役）、役員	11	(2.1%)
(2) 常時雇用されている一般従業者	154	(29.4%)
(3) 臨時雇用、パート・アルバイト	31	(5.9%)
(4) 単独（個人・自由業）	52	(9.9%)
(5) 自営業主（雇っている人が1～4人まで）	37	(7.1%)
(6) 家族従業者	138	(26.4%)
(7) 無職（専業主婦）	100	(19.1%)
合計	523	(100.0%)

問49 （50歳頃、働いていた方へ）従業員（雇われている人）は、会社全体で何人くらいでしたか。あるいは、役所にお勤めでしたか。

(1) 官公庁	10	(1.9%)	(6) 300—499人	9	(1.7%)
(2) なし	182	(34.8%)	(7) 500—999人	0	(0%)
(3) 1—4人	55	(10.5%)	(8) 1000人以上	4	(0.8%)
(4) 5—29人	86	(16.4%)	(9) 非該当（無職）	100	(19.1%)
(5) 30—299人	77	(14.7%)	合計	523	(100.0%)

問50 （50歳頃、働いていた方へ）従業先で、あなたはどんな仕事をされておられたのですか。

(1) 農林漁業従事者	174	(33.3%)
(2) 事務的職業（一般事務、経理事務、通信士など）	30	(5.7%)
(3) 販売的職業（販売店員、外交員など）	38	(7.3%)
(4) サービス的職業（接客員、理容師、料理人、家政婦、清掃員、運転手など）	54	(10.3%)
(5) 保安的職業（警官、自衛官、守衛など）	0	(0%)
(6) 生産工程従事者（工具、大工、とび職、採掘作業など）	103	(19.7%)
(7) 専門的職業Ⅰ（研究者、大学教員、医師、弁護士、税理士など）	2	(0.4%)
(8) 専門的職業Ⅱ（保母、高校・中学校・小学校教員、看護婦、栄養士など）	18	(3.4%)
(9) 専門的職業Ⅲ（著述家、芸術家、宗教家、デザイナー、カメラマン、プロスポーツ選手など）	1	(0.2%)
(10) 管理的職業（課長以上の管理職、議員、駅長、局長など）	3	(0.6%)
(11) 非該当（無職）	100	(19.1%)
合計	523	(100.0%)

問51 あなたが最後に卒業した学校はどこですか（中退は卒業とみなします）。

(1) 旧制尋常小学校／新制小学校（未就学も含む）	73	(14.0%)
(2) 旧制高等小学校／新制中学校	263	(50.3%)
(3) 旧制（高等）女学校・旧制実業学校・旧制師範学校／新制高等学校	178	(34.0%)
(4) 旧制高専・旧制（女子）大学／新制大学・新制短大	9	(1.7%)
合計	523	(100.0%)

問52 （夫のいる方へ）あなたの夫の現在のお仕事は、大きく分けてこの表のどれにあたりますか。

(1) 経営者（重役）、役員	12	(2.3%)
(2) 常時雇用されている一般従業者	24	(4.6%)
(3) 臨時雇用、パート・アルバイト	14	(2.7%)
(4) 単独（個人・自由業）	42	(8.0%)
(5) 自営業主（雇っている人が1～4人まで）	24	(4.6%)
(6) 家族従業者	44	(8.4%)
(7) 無職	148	(28.3%)
(8) アパート経営	1	(0.2%)

(9) 非該当 (夫はいない)	214 (40.9%)
合 計	523 (100.0%)

問53 (夫が現在、働いている方へ) 従業員 (雇われている人) は、会社全体で何人くらいですか。あるいは、役所にお勤めですか。

(1) 官公庁	3 (0.6%)
(2) なし	98 (18.7%)
(3) 1-4人	27 (5.2%)
(4) 5-29人	22 (4.2%)
(5) 30-299人	9 (1.7%)
(6) 300-499人	1 (0.2%)
(7) 500-999人	0 (0%)
(8) 1000人以上	0 (0%)
(9) 非該当 (無職, アパート経営, 夫はいない)	363 (69.4%)
合 計	523 (100.0%)

問54 (夫が現在、働いている方へ) 従業員で、あなたの夫はどんな仕事を現在されておられるのですか。

(1) 農林漁業従事者	90 (17.2%)
(2) 事務的職業 (一般事務, 経理事務, 通信士など)	3 (0.6%)
(3) 販売的職業 (販売店員, 外交員など)	10 (1.9%)
(4) サービス的職業 (接客員, 理容師, 料理人, 家政婦, 清掃員, 運転手など)	10 (1.9%)
(5) 保安的職業 (警官, 自衛官, 守衛など)	2 (0.4%)
(6) 生産工程従事者 (工具, 大工, とび職, 採掘作業など)	35 (6.7%)
(7) 専門的職業Ⅰ (研究者, 大学教員, 医師, 弁護士, 税理士など)	2 (0.4%)
(8) 専門的職業Ⅱ (保母, 高校・中学校・小学校教員, 看護婦, 栄養士など)	0 (0%)
(9) 専門的職業Ⅲ (著述家, 芸術家, 宗教家, デザイナー, カメラマン, プロスポーツ選手など)	4 (0.8%)
(10) 管理的職業 (課長以上の管理職, 議員, 駅長, 局長など)	4 (0.8%)
(11) 非該当 (無職, アパート経営, 夫はいない)	363 (69.4%)
合 計	523 (100.0%)

問55 (すべての方へ) あなたの夫が50歳頃のお仕事は、大きく分けてこの表のどれにあたりますか。

(1) 経営者 (重役), 役員	39 (7.5%)
(2) 常時雇用されている一般従業者	241 (46.1%)
(3) 臨時雇用, パート・アルバイト	22 (4.2%)
(4) 単独 (個人・自由業)	66 (12.6%)
(5) 自営業主 (雇っている人が1-4人まで)	69 (13.2%)
(6) 家族従業者	45 (8.6%)
(7) 無職	5 (1.0%)
(8) 夫はいなかった	36 (6.9%)
合 計	523 (100.0%)

問56 (夫が50歳頃、働いていた方へ) 従業員 (雇われている人) は、会社全体で何人くらいでしたか。あるいは、役所にお勤めでしたか。

(1) 官公庁	41 (7.8%)	(6) 300-499人	15 (2.9%)
(2) なし	142 (27.2%)	(7) 500-999人	4 (0.8%)
(3) 1-4人	61 (11.7%)	(8) 1000人以上	29 (5.5%)
(4) 5-29人	105 (20.1%)	(9) 非該当 (無職・夫はいなかった)	41 (7.8%)
(5) 30-299人	85 (16.3%)	合 計	523 (100.0%)

問57 (夫が50歳頃、働いていた方へ) あなたの夫が50歳頃、従業先でどんな仕事をされておられたのですか。

(1) 農林漁業従事者	128	(24.5%)
(2) 事務的職業(一般事務, 経理事務, 通信士など)	46	(8.8%)
(3) 販売的職業(販売店員, 外交員など)	38	(7.3%)
(4) サービス的職業(接客員, 理容師, 料理人, 家政婦, 清掃員, 運転手など)	55	(10.5%)
(5) 保安的職業(警官, 自衛官, 守衛など)	6	(1.1%)
(6) 生産工程従事者(工員, 大工, とび職, 採掘作業など)	161	(30.8%)
(7) 専門的職業Ⅰ(研究者, 大学教員, 医師, 弁護士, 税理士など)	7	(1.3%)
(8) 専門的職業Ⅱ(保母, 高校・中学校・小学校教員, 看護婦, 栄養士など)	7	(1.3%)
(9) 専門的職業Ⅲ(著述家, 芸術家, 宗教家, デザイナー, カメラマン, プロスポーツ選手など)	4	(0.8%)
(10) 管理的職業(課長以上の管理職, 議員, 駅長, 局長など)	30	(5.7%)
(11) 非該当(無職・夫はいなかった)	41	(7.8%)
合計	523	(100.0%)

問58 あなたたちご夫婦(夫婦でない場合は, あなた)には, 現在どのような収入がありますか。主なものを2つだけあげて下さい。

(1) 年金・恩給	521 (99.6%)	(5) 預金からの引き出し	41 (7.8%)
(2) 仕事からの収入	149 (28.5%)	(6) 生活保護費	0 (0%)
(3) 家賃, 地代, 預貯金の利子や配当	34 (6.5%)	(7) その他	4 (0.8%)
(4) 子供からの援助, 仕送り	27 (5.2%)		

問59 過去1年間のあなたたちご夫婦(夫婦でない場合は, あなた)の就業による収入と年金・恩給は, 合計していくらくらいですか。

(1) 100万円未満	146 (27.9%)	(7) 601—700万円	5 (1.0%)
(2) 101—200万円	154 (29.4%)	(8) 701—800万円	0 (0%)
(3) 201—300万円	125 (23.9%)	(9) 801—1000万円	2 (0.4%)
(4) 301—400万円	44 (8.4%)	(10) 1001万円以上	3 (0.6%)
(5) 401—500万円	28 (5.4%)	(11) 拒否あるいは不明	4 (0.8%)
(6) 501—600万円	12 (2.3%)	合計	523 (100.0%)

問60 過去1年間のあなたたちご夫婦(夫婦でない場合は, あなた)のすべての収入(問58の(1)から(7)の合計)は, 合計していくらくらいですか。

(1) 100万円未満	139 (26.6%)	(7) 601—700万円	4 (0.8%)
(2) 101—200万円	147 (28.1%)	(8) 701—800万円	0 (0%)
(3) 201—300万円	129 (24.7%)	(9) 801—1000万円	2 (0.4%)
(4) 301—400万円	49 (9.4%)	(10) 1001万円以上	4 (0.8%)
(5) 401—500万円	31 (5.9%)	(11) 拒否あるいは不明	4 (0.8%)
(6) 501—600万円	14 (2.7%)	合計	523 (100.0%)